

未来につなぐ世界史

今回学ぶこと

日本の歴史は、世界の歴史の一部です。世界史と日本史が別々に存在しているわけではありません。日本列島の人々の生活は、世界各地のさまざまな人々の活動による影響を受け、これらと連動しながら展開されてきました。今回は、特に、中国、西洋諸国からの影響について具体的に学び、「世界の中の日本」の歴史を確認し、これからの日本が進むべき方向について考えます。

調べておこう・覚えておこう

- 唐の都長安と奈良・平城京の地図を見て、主要な建物や道路の位置を調べ、どこが似ていてどこが異なっているかを確認しよう。
- 黒船来航（1853年）から明治新政府の成立（1868年）までの期間に、アメリカ、イギリス、フランスが世界各地でどのような活動を行っていたのかを確認しよう。
- 日本国憲法の前文と第九条を読み、その内容を理解しておこう。

中国からの影響

日本列島の歴史は、その始まりから今日に至るまで、中国大陸や朝鮮半島の歴史と密接に関連しながら、展開されてきた。ここではそのうち特に奈良・平安時代における中国からの影響について学ぶ。中国大陸に、隋（581～618）と唐（618～907）という統一王朝が生まれ、皇帝を中心とする政治の仕組みが整えられると、そのうちで日本列島の社会にも合うものを取り入れて、天皇を中心とする政治と社会の体制を整備しようとする動きが起こった。隋の制度を参考に憲法十七条や官位十二階が定められ、唐の律令制が取り入れられ、都長安の都市計画をモデルにして、平城京（今日の奈良）と平安京（今日の京都）がつくられた。

もともと、中国の政治制度や文化がすべてそのまま取り入れられたわけではない。また、取り入れられたものには、しばしば手が加えられた。漢字からかな文字がつくられ、少し時代は下るが、鎌倉時代には時宗、浄土宗、浄土真宗などの日本独自の宗派が生まれたのは、その例である。

西洋諸国からの影響

18世紀後半から19世紀にかけての西ヨーロッパや北アメリカでは、その後の人類の歴史に大きな影響を与える出来事が相次いで起こった。アメリカ合衆国の成立（1776）、フランス革命とナポレオン戦争（1789～1815）は、そのうちでももっとも重要である。これ以後、西ヨーロッパでは、明確な領土と国民の存在によって特徴づけられる国民国家が建設されてゆく。

また、イギリスで最初に起こった産業革命と科学技術の発展によって、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカなどの西洋諸国は、最新鋭の武器によって武装された強力な軍隊を備え、好調な経済を背景に世界各地に進出してゆく。アメリカのペリーが黒船に乗って浦賀にやってくるのは、そのような西洋諸国による世界規模の活動の一環だった。260年余り続いた徳川家の政権に替わって日本列島の政治権力を握った明治政府は、西洋諸国の政治や社会の仕組みを取り入れた改革を急ピッチで展開した。また、科学技術の導入を進め産業の育成に務め、西洋諸国に対抗できるような、強い国民国家、さらには植民地を持つ帝国を目指した。

第二次世界大戦後の日本と世界

第二次世界大戦に敗れた日本は、新しく制定され、国民主権と戦争放棄をうたう日本国憲法に基づいて、平和を守り、諸外国との友好関係を樹立し、戦争で破壊された国土と産業・経済の復興に務めてきた。世界各地で生じる貧困の問題や軍事的な紛争に対しては、自衛隊を派遣することはあっても、武力は使用せずに、社会秩序の回復や民生の安定に協力してきた。このような継続的な努力によって、戦後の日本は多くの国々の信頼を得ることができた。それは、東日本大震災のような日本国内での災害に対して、160以上もの国々が救援の手を差し伸べてくれたことによってもよくわかる。

経済、環境、情報、それに政治などのあらゆる側面で、日本と世界の各地が緊密に結びつき、グローバル化された一つの世界を形成するようになった現代においては、世界の中での日本の歴史を理解することの重要性が増大している。

